

沙羅の樹文庫 だより



お蚕部屋(糸魚川より移築)：信州薬師平の宿にて 18.3.3

文庫あれこれ◆ 数年に1度ですが、今年は早々花粉症になりました。自宅の近くに見事に花を咲かせるコブシの大木があって、その白い花が拳を開くように咲き始めると、ああ春が来たなあ、と思っていたのですが、なぜか伐採されて、今年はかわりに白蓮が東京を出るとき、7分咲きで、それが熱海を過ぎると満開! ◆伊豆高原の駅で大寒桜に迎えられ文庫のドアを開けると…。なぜか溝に焦げた菓の残骸の山?荷物を置いて母屋へ。お風呂場が、台所が…。大室山の山焼きの置き土産? まずこれに始まって、ドアフォンがならない、接触が悪いらしい、と思っていたら、今度は風が吹く度に鳴りだす、先月、強風?で朽ち落ちた文庫の表示板が直っていない、樋から雨で地面が流れ出す、今年もハチの気配が…。etc. 住んでいないと老朽化も早まります。◆政治や国際情勢はおいとして、知っている色々な方が亡くなります。金子兜太さんの句はあまり知らないですが、選者としての言葉、また、娘の連れ合いが、金子さんの日常をVD化した際、音楽を担当したので、当時雙蝶たるお姿を拝見、親近感あり、でした。◆スティーヴン・ホーキング博士も亡くなりましたね。あのような身体状況で、生き、かつ、人々に宇宙への関心をいや増してくれたように思います。娘さんとの共著、2冊、大人にも読んでほしいです。(ID3481、3925)◆また、『ゲド戦記』のアーシュラ・ル・グィンも忘れられない作家です。読んですぐ忘れてしまう浅読の私ですが、主人公が異界へ旅する感じが妙に美感する。◆私の好きなドイツ児童文学翻訳家・上田真而子(まにこ)さんも亡くなりました。ベーター・ヘルトリングや、エンデのもの、文庫にあるだけでも(岩波少年文庫)結構あります。別置しましょう。大人にも子どもにも心に残る仕事をしています。私は『ヒルベルトいう子がいた』『波紋』等が好きでした。◆自分が急死しない限り先輩を見送ることになるけれど、この年になると親しい人々との別れはつらいですね。◆土曜の朝です。雲がたくさんありますが、お天気になりそう?! 今更ですが、本が日光で変色するので、カーテンを付けました。あり合わせだったので、文がチグハグ…。◆今月も新旧たくさん入りました。◆風がチャイムを鳴らしています。◆高校と幼稚園、2人の孫が卒業しました。巣立ちの季節です。(西村)

★開館日は通常は 第3日曜と前日の土曜です★

2018

◆4月は通常 14日(土)、15日(日)の両日
◆5月は延長 18日(土)～21日(月)の4日間
★5月スペシャルイベントタイム★
磯田浩子さんによる
<子どものためのおはなし色々スペシャル>
今年は、子どものための「若葉のころのおはなし会」を5月6日(GW最後の日)開催します。文庫の日とは違いますが、お間違いないように。詳細は追ってお知らせします。
◆6月は通常 16日(土)～17日(日)両日
◆7月は通常 14日(土)～15日(日)両日
★夏のイベント：海の日のおはなし会は 15日(日)17:00～伊豆高原駅広場
♥開館記念子どものためのおはなし会は 16日(祝)10:30～沙羅の樹文庫で開催
※前号で夏のイベントの日にちを間違いました。お詫びして訂正します。
◆8月は延長 18日(土)～21日(月)の4日間

糸魚川かにや横丁でカニ味噌 18.3.16 西村夫



沙羅の樹文庫 0557 -51-3737
<http://www.saranokibunko.com>

どこかで春が 生まれてる、
どこかで水が ながれ出す。
どこかで雲雀が 啼いている、
どこかで芽の出る 音がする。
山の三月 東風吹いて
どこかで春が うまれてる。
(百田宗治作詞：草川信作曲)

NHK の〈みんなのうた〉にもいい歌があるけれど、日本の唱歌は懐かしく美しい。春の歌、いくつ思い出せますか? さくら・早春賦・蝶々・うれしいひな祭り・花嫁人形・春の小川・めだかの学校・鷹月夜・花…。
(小沢良吉・絵『唱歌えほん 日本語の故郷』より)

2018年3月に思ったことなど

森・林・浴

新しい年に入って思いもよらぬ出来事がありました。1月9日に一寸した怪我をして動けなくなってしまったのです。今になれば笑い話ですが、天気がよかったのでいつものように 2 階の窓から布団を手すり干したのですが、思いもよらない強い風が突然天城山の方から吹いてきて布団がどんと流されてゆくではないか、こりゃ大変と慌てて布団を持ち上げて部屋に入れかけたら、また凄まじい瞬間的な強風が襲ってきて、両手に大きく布団を抱えたまま、後方にぶっ倒れ、気が付いたら室内で妙な姿になって動けません。やっと起き上がった左足に激痛が。なんとこれがやったこともない「肉離れ」なるもの始まりです。幸い翌日は、よく行く(はばクリニック)に整形外科医が来る日でしたので、順天堂病院からくる若い先生に全身のレントゲン写真を撮ってもらったら、骨に異常はなく、筋肉の怪我一浴に言う肉離れにやられたと判明、薬(張り薬と飲み薬)を買って帰りました。しかしこれがなかなか治らないんですね。家人はそういうのは結構長く治らないよと宣言してくれたのですが、何しろ寝ても痛みて熟睡できないので、だんだんとイライラが募るようになります。2 週間目にはまた(はばクリニック)の先生に「まだ治りませんよー」と言いに行ったのですが、一寸大げさに見せないと話が進まないのではないかと企んで、クリニックの入口に置いてあった貸出用の車椅子に乗って診察室に押しかけたものだから、医者も驚いたのでしょう、「それではMRI=磁気共鳴コンピュータ断層撮影機で血管などを調べましょう、ただし機器が断層にはないの、紹介状書くから、市民病院で検査をしてきてください。」とえらい大げさな話になってしまいました。いややってみたら、これは全身を凄まじくチェックする大きな機械での検査でした。結果はその後、怪我はなかったということ、薬を継続し、その後、怪我してから4 週間も過ぎたころから自然に治ってきたのです。まあ今となれば「そう焦りなさんな」という教訓を学んだという1幕でした。(さ・らもほっと安心)

1月～3月の間に読んだ本の感想

森・林・浴

1)「人生の氣品」草笛光子ほか 15名 新日本出版社発行。2017年初版
新日本出版社と言うのは日本共産党系の出版社で、この本は赤旗新聞の日曜版に連載された女優草笛光子からノーベル賞賞った物理学者・梶田隆章まで 15 人からの聞き取り取材記録を本にまとめたもので特段、政治的な主張に偏しているわけではないようだ。個人的には香川京子さんに関しては、ご主人の新聞記者さんに個人的に取材を受けたことがあるので懐かしい気がしたとか、俳優の宝田 明さんは私の父と同じく満州で苦労されたんだとか、作家 赤川次郎さんは世田谷区で一時住まいが近かったな、とか他愛のないきっかけがありました。全体的には、反自民党—特に「反安倍晋三」、「反原発」の主張がはっきりしています。

2)「日本史の内幕」磯田道史著 中公新書 2017年10月第3版
今大変人気が出て売れっ子の歴史学者 磯田道史の短文多数。歴史学者なら当然やることですが、古文書を探し、時には買い取って、内容を日本史の中でキチンと位置付けるという仕事の面白さがたっぷり書かれている新書版の本。著者は15歳で古文書の解読をはじめたという。家康・竜馬・西郷など多数が登場する。

3)「日本の歴史を旅する」五味文彦著 岩波新書 2017年10月 第2版
著者の五味文彦氏は歴史学の分野では大変著名な学者だということです。とっつき易いテーマで各時代をたっぷり味わいながら日本各地の歴史を教示して貰えます。記述はすべて正確だと安心できるので楽しめます。

4)「バカ論」ビートたけし著 新潮新書 2017年11月第3版

今の日本で一番売れている芸人は疑いなくたけしだろう。毎年・毎日、TVでたけしの顔・声に遭遇しない日は殆どないでしょう。おそらく彼は本邦始まって以来最高の成功した芸人ではないのか。映画まで作ってそれでも賞をもらっているんだからもう敵わない。余計な心配だが、年取は何十湯通し徳田なのが見当もつかない。でもこの本を読むと彼は予想を超えた懶巧者で、膨大な収入も賢く氣前よくばらまいているに違いない。

西村夫うまいもの探しのちょい旅

① 18.2.25 はばちゃん料理フルコースを食べに鳥取へ。はばちゃんという魚(正式名：タナカゲンゲ)カニ漁の網にかかってくる。非常に生臭いので、お刺身も鯉のあらいのように湯通しする。先付に始まって、刺身、焼き物、煮物、天ぷら、鍋、雑炊、全て、はばちゃん。煮物(鯉の部分、コラーゲンまんま)が最高に美味。私も同行。

② 18.3.3 何度か行っている信州薬師平。南アルプス全貌と温泉。明け方の松本平にかかる月がよかった、と。

③ 18.3.10 沖繩・水納島、瀬底島。島の中より、遠くで眺めるほうが good。フェリーの港で買った大紅みかんやタンカンが美味だった。

④ 18.3.16 糸魚川。かにや市場で食べたスワイガニが美味しくて、肴がうまさざると、酒もいらぬ、と。夜いった居酒屋も安くて新鮮さかないろいろだったが、うまいカニをたらふく食べたせいで食べられなかった、と。

※遊び歩いていろいろありますが、週に4日働いています。日常は非常に儉約家。念のため妻からひと言。写真も埋め草?に使わせてもらっています。



絵本

『がたんごとんがたんごとん』(安西水丸さく 福音館書店 1987)ID12640
 『だるまちゃんとかまどんちゃん』ID12690『だるまちゃんとはやたちちゃん』ID12689(加古里子さくえ 福音館書店)
 『ことは忍法★オノマトペ』(富川晴名作 いげたゆかり絵 日本新薬)ID12691
 『おひなさまのいえ』(ねぎしれいこ作 吉田朋子絵 世界文化社 2018)ID12685※ひなまつりは過ぎたけど。
 『さよならともだち』(内田麟太郎作 降矢なな絵 偕成社 2018)ID12687※(おれたち、ともだち!)
 『いろのかげらのしま』(イ・ミョン作と絵 生田美保訳 ポプラ社 2017)ID12688
 『本の子』(オリヴァー・ジェファース/サム・ウィンストン著 柴田元幸訳 ポプラ社 2017)ID12686

よみもの

『おひとよしのりゅう』(ケネス=グレアム作 石井桃子訳 学研)ID12692
 『太陽と月の大地』(コンチャ・ロペス=ナルバエス著 宇野和美訳 福音館書店 2017)ID12649
 『ポケットの中の天使』(デイヴィッド・アーモンド作 山田順子訳 東京創元社 2018)ID12693
 『三びきのクマ』(トルストイ原作 小宮山俊平訳 ヨシタケシンスケ絵 理論社 2017)ID12694
 『アズブカ』(レフ・トルストイ作 ふみ子・デイヴィス訳 ナターリヤ・トルスタヤ絵 未知谷 2018)ID12695
 『ハックルベリー・フィンの冒げん』(マーク・トウェイン著 柴田元幸訳 研究社 2017)ID12696
 『ロビンフッドのゆかいな冒険1、2』(ワード・

パイル作 村山知義/亜士訳 岩波少年文庫)ID12698、12699
 『黄金時代』(ケネス・グレアム著 三宅興子/松下宏子訳 翰林書房 2018)ID12700

『今日よりは明日はきっと良くなる〜愛犬・太刀と暮らした16年』(茂市久美子著 講談社 2018)ID12697※3.11を頑張って生きている人の物語

広瀬おばさんから18-2

ノンフィクション絵本

『かくれてばかり』(海野和男・中村鷹夫ほか写真 島田泰子文 童心社 2017)ID12651
 『チュリップ』(荒井真紀さく 小学館 2017)ID12652
 『ミックがだいすき②』(ウォルター・ウィック作 糸井重里訳 小学館 2017)ID12653
 『世界動物アトラス』(レイチェル・ウィリアムズ+エミリー・ホーキンス文 ルーシー・レザランド絵 2017)ID12654
 『宇宙遊星間旅行』(中江嘉男作 上野紀子画 ポプラ社 2014)ID12655
 『ネコ博士が語る科学のふしぎ』(ドミニク・ウォーリマン文 ベン・ニューマン絵 田中薫子訳 徳間書店 2017)ID12656
 『しあわせなてをたたこう』(きむらりひと詞 村上康成構成・絵 ひさかたチャイルド 2017)ID12657
 『ものけの家(今昔絵本)』(ほりかわりまこ作 偕成社 2017)ID12658
 『くまさん』(まどみちお詩 ましませつこ絵 こぐま社 2017)ID12659
 『ふたつでひとつ』(かじりみな子さく 偕成社

2017)ID12660
 『どんぐりないよ』(間部香代作 ひろかわさえこ絵 すずき出版 2017)ID12661

よみもの

『カラスだんなのはりがねごてん』(井上よう子作 くすはら順子絵 文研出版 2017)ID12676
 『ケータイクんとフジワラさん』(市川宣子作 小学館 2017)ID12675
 『魔法学校へようこそ』(さとうまきこ作 偕成社 2017)ID12677
 『ジャンケンの神さま』(くすのきしげのり作 小学館 2017)ID12678
 『流れ星キャンプ』(嘉成晴香作 あかね書房 2016)ID12674
 『サイコーのあいつとロックレボリューション』(牧野節子作 国土社 2016)ID12681
 『かぐやひめのおとうと』(広瀬寿子作 国土社 2015)ID12679
 『歌う樹の星』(風野潮作 ポプラ社 2016)ID12669
 『わたしが、もうひとり(ものだま探偵団4)』(ほしおさなえ作 徳間書店 2017)ID12673
 『お母さんの生まれた国』(茂木ちあき作 新日本出版社 2017)ID12683
 『君の話をきかせて アーメル』(ニキ・コーンウエル作 渋谷弘子訳 文研出版 2016)ID12682
 『消えた犬と野原の魔法』(フィリパ・ピアス作 さくまゆみこ訳 徳間書店 2014)ID12680
 『モンスーンの贈りもの』(ミタリ・パーキンス作 永瀬比奈訳 すずき出版 2016)ID12670
 『タイガー・ボーイ』(ミタリ・パーキンス作 永瀬比奈訳 すずき出版 2017)ID12672
 ※以上2冊、ニューベリー賞作家の作品

『ネズミの騎士デスペローの物語』(ケイト・ディカミロ作 子安亜弥訳 ポプラ社 2016)ID12671
 『空飛ぶリスとひねくれ屋のフローラ』(ケイト・ディカミロ作 斎藤倫子訳 徳間書店 2016)ID12684 ※以上2冊ニューベリー賞受賞

新聞のきりめきからミッケ!!

「第40回未来の科学の夢絵画展」で、文部科学大臣賞をもらったのは、秋田県の小2。「世界中の本が読めるアイマスク」だって。辞書なしで世界中の文字が読めたらすごいね!でも、読もうとする気持ちがなくては、ね。文庫のみんなは、これから、たくさん、楽しい本、みつけて、読もうとしてね♥

みんな知ってる?

理論物理学者のスティーヴン・ホーキングさんが亡くなりました。若い時に難病になり、それでも宇宙についていろいろな発見や研究をつづけ私たちに宇宙を近づけてくれました。文庫に「宇宙への秘密の力キ」「宇宙に秘められた謎」の2冊があります。中学生の人、宇宙に関心のある人、理系を目指す人、ちょっと分厚いけど、楽しい本(中2の孫いわく)なので、読んでみて!!

こどもの本にこころを寄せて

にしむらひろこ

この冬は各地で記録的な寒さ。それでも立春を過ぎれば、冷たい風の中、ろう梅や紅白の梅、河津桜が次々に花をつけ、日延べしながらも大室山は2月末に無事(?)焼きあがりました。瞬間に季節が廻ります。ほどなく伊豆高原の桜も咲き誇り、私たちを圧倒することでしょう。植物は当たり前のように季節を紡いでいきます。春の到来を実感する今日この頃。

さて、小学校の読み聞かせに、おはなし絵本ばかりではなく自然観察的な本を選ぶことがあります。ソメイヨシノの春夏秋冬を美しい絵とともにたどる『さくら』(長谷川撰子文/矢間芳子絵・構成 福音館書店)はその代表作。低学年でも大丈夫ですが、私はあえて六年生の教室に届けます。桜の記憶も新鮮な一学期の「朝の読書」で読み、「来年の桜の咲く頃、皆さんは中学生になりますね」と短く結んで見回すと・・・



子どもたちはハッとしてみんなと困った表情をしたり、自信ありげににっこりしたり、恥ずかしそうに顔を見合わせたり。「マジ、ヤバくない?」という驚きかな。一年という時の流れと重みがダイレクトに心に響く絵本です。

ソメイヨシノが季節にあわせて細やかに丁寧に生きていて、美しいかぎり。

『たんぼぼ(かがくのとも絵本)』(平山和子ぶん・え 北村二郎監修 福音館書店)も身近な植物の自然観察と写生が美しい絵本。実物大のたんぼぼの根っこを確かめたくて、春になるとつい、この本を手にしてしまいます。



おはなしの絵本は子どもたちも意外と気軽に手に取ることができます。だから、ちょっと地味に見えるけれど楽しさ満載の自然科学系の絵本も、機会をみてもっと紹介していきたいです。

ところで文庫にお越しの大人の皆さま、ぜひ一冊、子どもの書棚から本を選んで、ひと月、お手元に置いてみませんか?絵本はすぐに読めてしまうものですが、だからこそその楽しみがあります。だからこそその発見があります。とても瑞々しい気持ちになりますよ。

目かとび出る地しん

宮城県・小1 佐藤くん
 学校にいるとき大じんがきた
 つくえの下にもぐった
 ゆかがぐにやくにや動いて
 ゼリーの上にいるみたいだった
 いろんな物がふってきた
 校庭にひなんした
 みんなないてた (『ことばのしっぽ』より)

7年前幼稚園以上だった人たちは、おぼえているでしょう。2011.3.11に東日本大震災が起きました。地震で家が壊され、津波で人が流れ、原発事故を引き起こしました。いまだに行方不明の人々が大勢います。放射能度が高いため、避難して故郷に帰れないお友だちがたくさんいます。みんなのそばにそんなお友だちがいたら、自分がその立場にいたらどうだろうと考えて、やさしく接しましうね。関連本を別にします、読んでみてください。

フィクション

『口笛の上手な白雪姫』(小川洋子著 幻冬舎 2018)ID17396
 『風神の手』(道尾秀介著 朝日新聞出版 2018)ID17397
 『人魚の石』(田辺青蛙著 徳間書店 2017)ID17398
 『屍人荘の殺人』(今村昌弘著 東京創元社 2017)ID17399※このミステリーがすごいほか1位。
 『焰』(星野智幸著 新潮社 2018) 17400
 『タンゴ・イン・ザ・ダーク』(サクラ・ヒロ著 筑摩書房 2017)ID17401※太宰賞
 『完本春の城』(石牟礼道子著 藤原書店 2017)ID17402
 『坂を見あげて』(堀江敏幸著 中央公論新社 2018)ID17372
 『雪の階』(奥泉光著 中央公論新社 2018)ID17403
 『道の向こうの道』(森内俊雄著 新潮社 2017)ID17405
 『ファミリー・ライフ』(アキール・シャルマ著 小野正嗣訳 新潮社 2018) ID17373
 『終わりの感覚』(ジュリアン・バーンズ著 土屋政雄訳 新潮社 2012) ID17374
 『女王ロアーナ、神秘の炎 上・下』(ウンベルト・エーコ著 和田忠彦訳 岩波書店) ID17408、17409

『刑務所の読書クラブ』(ミキータ・プロットマン著 川添節子訳 原書房 2017)ID17410
 『カストロ 上・下』(セルジュ・ラフィ著 清水珠代/神田順子訳 原書房 2017)ID17411、17412

エッセイほか

『ベスト・エッセイ2017』(日本文藝家協会編著 光村図書出版 2017)ID17404
 『無常の使い』(石牟礼道子著 藤原書店 2017)ID17406
 『昭和と師弟愛一植木等とあるいた43年』(小松政夫著 KADOKAWA 2017) ID17375
 『季語体系の背景—地貌季語探訪』(宮坂静生著 岩波書店 2017)ID17407

文庫

『苦界浄土-わが水俣病』(石牟礼道子著 講談社文庫)ID17413
 『家と庭と犬とねこ』(石井桃子著 河出文庫 2018)ID17395
 『終電の神様』(阿川大樹著 実業之日本社文庫 2017)※request
 『木洩れ日に泳ぐ魚』(恩田陸著 文春文庫)ID17415
 『西東三鬼全句集』(西東三鬼著 角川ソフィア文庫 2017)ID17414
 『沙門空海唐の国にて鬼と宴す 巻ノ1~

4』(夢枕獯著 角川文庫)ID17421~4
 ※映画化(日中協同作品)され、目下上映中

『ワン・プラス・ワン』(ジョジョ・モイーズ著 最所篤子訳 小学館文庫 2018) ID17376
 『ハイファに戻って/太陽の男たち』(ガッサーン・カナファーニ著 黒田寿郎/奴田原睦朗訳 河出文庫 2017) ID17377
 『声』(アーナルデュル・インドリダソン著 柳沢由美子訳 創元推理文庫 2018) D17417
 『エヴァの震える朝』(エヴァ・シュロス著 吉田寿美訳 朝日文庫 2018)ID17418
 『闇の左手』(アーシュラ・K・ル・グイン著 小尾英佐訳 早川書房)ID17419

新書

『陰謀の日本中世史』(呉座勇一著 角川新書 2018)ID17420
 『雑草はなぜそこに生えているのか』(稲垣栄洋著 ちくまプリマー新書 2018)ID17425

寄贈

ありがとうございます。

単行本

『わが恋う人は』(遠藤周作著 講談社) ID17381
 『約束の冬 上下』(宮本輝著 文藝春秋) ID17378、9) 『静かな生活』(大江健三

読む楽しみを~北の国から 8

亜子

郎著 講談社 ID17380)
 『原発事故から這いあがる! 有機農業とときどき人形劇』(大河原多津子・仲著 東京シユーレ出版 ID17394)

文庫本

『モオツァルト・無常ということ』(小林秀雄著 新潮文庫)ID17382
 『剣と十字架(空也十番勝負 青春篇④)』(佐伯泰英著 双葉文庫 2018) ID17383
 『故郷はなきや(新・古着屋総兵衛 15)』(佐伯泰英著 新潮文庫 2017)ID17384
 『隠し湯の効(口入屋用心棒 39)』(鈴木英治著 双葉文庫 2017)ID17385
 『古道具屋皆塵堂』(輪渡颯介著 講談社文庫)ID17386 『蔵盗み 古道具屋皆塵堂』(輪渡颯介著 講談社文庫)ID17387
 『代官山コールドケース』(佐々木謙著 文春文庫)ID17388
 『河童のタクアンかじり歩き』(妹尾河童著 文春文庫)ID17389
 『昭和ミステリー大全集』(佐藤春夫ほか著 新潮文庫)ID17390
 『泥棒日記』(ジャン・ジュネ著 朝吹三吉訳 新潮文庫)ID17391 『街中の男(フランス・ミステリ傑作選1)』(ジョルジュ・シムノンほか著 ハヤカワ・ミステリ文庫)ID17392
 『にあんちゃん—十歳の少女の日記』(安本末子著 講談社文庫)ID17393

“今野敏”を読む
 『同期』(講談社文庫 2012)など
 シリーズものを楽しむ

多作で知られる作家・今野敏(1955年、北海道・三笠市生まれ)は1978年のデビューから今年(2018年)で40周年を迎えた。書くのが早い。締め切りに追われても遅れない。とにかくタフで疲れを知らず、お酒も強く、活動的な作家。その原動力は函館ラ・サール高校時代に始めた空手とか。空手のエッセイ『琉球空手、ばか一代』(2008年5月 集英社文庫)はゲラゲラ笑って読んだ。

この人はエンタテインメントを中心に非常に幅広く書いている。ジャンルは、警察もの、武道もの、伝奇もの、空手、青春ものなど。これだけたくさん書くのだから当然、当たりはずれがある、といっは失礼だが、私は好きなシリーズだけを選んで読んでいる。

お気に入り、倉島警部補シリーズの『曙光の街』『白夜街道』『凍土の密約』『アクティブメジャーズ』『防諜捜査』の5冊。『白夜街道』はロシアの地図を用意して主人公と一緒にドライブを楽しむ感覚で読んだ。それほどロシアとの深い関わりのある小説。どうしてこんなにロシアに詳しいのか不思議に思っていたが、今野敏は空手道場も開いていて、なんとモスクワにも彼の空手道場があって指導に出かけているらしいのだ。作家でありながら、同時に空手道場を経営し、空手の稽古をしているも、ここまで書けるのかと驚く。人生を人の三倍くらいのスピードで生きて三倍くらいの仕事をしているように感じる。このシリーズはどれもこれも夢中になって読んだ。

主人公の倉島警部補と元 KGB の殺し屋ヴィクトルとの不思議な友情が魅力的。

それともう一つ大好きなのが『隠蔽捜査』シリーズの『隠蔽捜査』『果敢—隠蔽捜査 2』『疑心—隠蔽捜査 3』『初陣—隠蔽捜査 3.5』『転迷—隠蔽捜査 4』『辛領—隠蔽捜査 5』『自覚—隠蔽捜査 5.5』『去就—隠蔽捜査 6』『棲月—隠蔽捜査 7』。読みみであるし、楽しんで書いているのが伝わってきて、次の新刊をいつも楽しみにしている。(『棲月』は2018年1月に発売になったばかり。ただ今回の作品はちょっと軽い)。その内容の濃さと質の高さから文学賞を多数受賞しているシリーズでもある。1作目の『隠蔽捜査』で第27回吉川英治文学新人賞を、続く『果敢』で第21回山本周五郎賞と第61回日本推理作家協会賞長編部門を、2017年にはシリーズ全体で第2回吉川英治文庫賞を受賞。このシリーズの主人公は大森警察署の署長・竜崎伸也。息子の不祥事により警察庁長官官房総務課課長というエリートコースからちょっと外れて警察署の署長に移動になったが、それをバネに人間的にも成長していくストーリー。警察官僚とはどんな仕事をしているのか興味深く読める。

そして、沙羅の樹文庫にある『同期』シリーズの『同期』『欠落』『変幻』も面白さと内容の濃さの両方に満足できる公安警察もの。警視庁捜査一課の宇田川、公安所属の蘇我、特殊班の女刑事・大石の同期三人の、ドライでありながらも互いにお互いを意識し思いやる絆を描く。

因みに、漫画家の石ノ森章太郎さんは、今野敏氏のはとこだそいで、彼から、「とにかく量を書くことで何かが見えてくる」というアドバイスを受けた、という記事を読んだ。質も大事だが、量を書くことも大事ということらしい。